


教職論

Study of Teaching Profession

担当複数

担当教員：今井 文俊、海口 浩芳、巽 公一、戸川 点

■授業の目的

教職に対する漠然とした憧れを一生の仕事にしたいとの確信に変えられるよう、教師は日々どのような仕事をしているのかを学び、チーム学校の一員として、教職のもつ社会的意義と使命を知識として修得することを目的とする。

■授業の到達目標

教職のもつ社会的意義と使命を知識として修得した上で、意欲をもって教職に就くためには教師としてどうあるべきかを探求し、そのバックボーンとなる思考フレームを具体化できるようにすることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 教職を目指す理由
今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することで、顕在化、潜在化している教師を目指す動機を掘り起こし、進路先としての教職への憧れ、興味・関心について考察する。
- 2 教育学と教職論(1)
社会システムから見た教師や実践者としての教師など、教育学研究からみた教師とは何かなど、教職の職業的特徴を理解し考察する。
- 3 教育学と教職論(2)
教職論設置の意義や、わが国における教職の免許制について学修するとともに、諸課題について考察する。
- 4 教職への視線(1)
教師に向けられる社会的視線について、教育の動向を踏まえ、学校と塾との比較やマスコミの受け止め方、教師の閉鎖性などについて考察する。
- 5 教職への視線(2)
教師の職業倫理や、教師の持つ権力性、外国籍生徒に対する対応などについて議論を交わし、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し考察する。
- 6 子どもの学びを支える人(1)
学校内では、教師以外にどのような人々が児童生徒に関わり、職務を担っているかを学修する。
- 7 子どもの学びを支える人(2)
学校外の放課後では、教師以外にどのような人々が児童生徒に関わり、職務を担っているかを学修する。
- 8 教師に求められる視野
狭い価値観にとらわれず、チーム学校の一員として、専門スタッフや保護者、地域社会との協働で教育活動に関わることの大切さについて議論を交わし、考察する。
- 9 日本の学校教師、その特性(1)
日本の教師に求められる日本固有の専門性と、日本の教師が脱却できない無境界性、無限定性について学修したのち、諸問題を考察する。
- 10 日本の学校教師、その特性(2)
校長の指導性の強化、階層による組織運営体制の確立といった、学校組織・運営の分業化の進展などについて学修する。
- 11 労働力市場の中の教職
教職に就くためのルートについて確認するとともに、教師を職業としている者の数や雇用者としての教師の割合についてなどのデータを確認し、実態を考察する。
- 12 学校教師の仕事(1)
職務内容の全体像や、教育公務員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解し考察する。
- 13 学校教師の仕事(2)
教科指導、学級経営や部活動等の教科外指導、校務分掌について学修し、部活動に関する諸問題について建設的な議論を交わし、考察する。
- 14 学び続ける教師
教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師が一生学び続け、成長するにはどのようにすればよいか、多面的に学修する。
- 15 試験、まとめ
教職の持つ社会的意義と使命、実際の教師の仕事内容などについて試験を行い振り返る。当講座を通じて得た知見から教職を目指す意志を再確認し、これからの学生生活で為すべきことをまとめる。

■授業の方法

知識として伝えるべき内容については講義形式をとるが、その際でも質問を通じて受講生に意見を求め、双方向の授業展開をする。また、講義の最後には振り返りの時間を設け、学んだことの整理をしてもらう。

■予習・復習

学習内容の理解を深められるよう教科書を読み、重要箇所をマークするなどの準備をする。また、配付した資料をもとに毎回の講義の要旨をまとめることで、振り返り学習として活用する。

■成績評価の方法

授業貢献度 30%、試験 70%で評価する。

■教科書・参考書

教科書：「教職論」岩田康之、高野和子 編（学文社）
参考書：文部科学省「学習指導要領」、教育小六法

■関連する科目

教育原理、各教科教育法